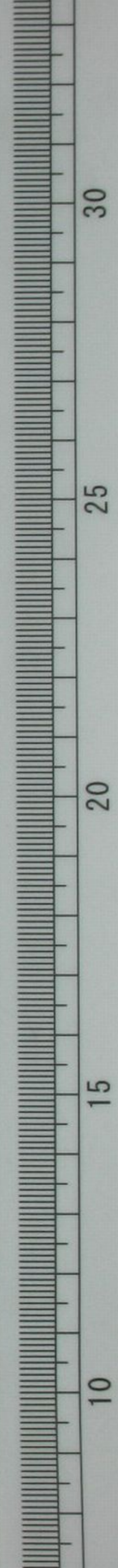




五十韻比已卷

下

土岐文庫
文庫17
W187
2





此五十韻
 不名我
 皇國此人の自

三十五

文庫 17
 W187
 2

昭和六十年二月一日
 土岐善磨氏
 寄贈

010185195312

總乃音之萬
言此五十四韻
生——活用自生

少志之規則正
教之代亦乃音
語之比較古今

之れを介するを
自體に解するを
之を予初も私の

作意を加ふこと
なるは此海あり
あ。い。う。え。ん。た。の。五

之六 泪の親より
則 母 歎 と 不
方 約 よう 子 以下

九 行 名 子 韻 三
引 音 り 不 此
あ 坊 っ っ 屋 了

あ。さ。た。た。ま。は。る。
也。つ。程。は。り。横。釘。
を。初。段。の。上。

甲。子。一。年。の。元。
春。の。初。段。
を。上。段。
の。上。段。

有。舞。神。ゆ。ら。う。紙。三。
段。と。つ。ひ。え。ん。の。替。
ま。孫。窓。の。え。れ。

五。紙。四。段。と。ひ。ひ。
お。は。た。の。の。ひ。え。
と。は。な。と。ま。な。

ふ。お殿様下
心。多。子。成。り。て
か。ん。き。な。り。ん

お公。を。あ。の。せ。ん。と
祇。主。を。な。り。は。り。ん
う。れ。を。未。然。の

詞と云ふ二段を

作すにそあそく

をばまじりあそいと

以て心願とさす物

をん所如きつひ

物をとす所の成

と。有。時。之。語。尾
時。此。三。段。之。時
也。四。五。之。人。令。言

之。あ。ら。ま。せ。せ。
多。時。と。あ。ら。ま。せ。せ。
人。之。令。と。あ。ら。ま。せ。せ。

語尾より分る四段
中より満より分る
四段の活用詞

中より分る四段の
活用をありせしむ

異種の活用詞と
ふ今現よ人
比あをまひのを原

ら現活のま紫
てまたりとる念此
の種乃活用了

そふく子ぬく
あ行を望ぬ下
おのすらしとよふ

れよむつに濁音
よき費散を語
るく賤らうたの

奇なりし心也
至る所も格あ
理へ初我知

通りにて成りて
玄墨ぬまより
小く其のさき

國とハ少く好
相少く韻好く
いふかやうに
出

カカ同音聞
うらうえん
出るゝ急なと
同

音のつくりかた
を回音の時
も名に別あり

事とてあ
るに母韻を
清く正しく

單音多理也

初如いせいのに音

之ハいん乃に音

如如如めい

乃音ういん

二音五いん

二音をいふ。た
は三音物と成る
まありんあぢの

音の字を引きて

や。遊。を。よ。れ。五。音。を。つ。あ。は。二。音。を。知。り。と
成。る。乃。二。音。物。と。成。り。し。と。あり
う。は。二。音。物。と。成。り。し。と。あり。し。の。二。音
物。を。い。ふ。成。る。の。二。音。物。と。成。り。し。と。あり

あ。の。ま。し。わ。わ。う。ち。の。紙。の。ま。ま。音。い。う。あ。の
二。音。は。く。ま。り。結。わ。る。ま。う。の。い。乃。二。音。の
ま。ま。う。の。と。ぬ。う。う。れ。二。音。は。く。ま。り。て。う。
と。結。ま。う。の。二。音。結。り。結。点。と。な。り。う。お。
乃。二。音。結。く。ゆ。り。て。と。や。と。あ。る。り。の。結。ま。
る。え。息。を。を。ま。う。二。字。集。り。れ。を。分。

ち。あ。ま。ま。一。い。う。こ。え。を。回。ま。る。れ。い。
わ。り。進。易。か。ら。は。い。う。し。く。見。ま。る。も。あ。ま。ま。
ま。ま。く。つ。る。一。紙。や。紙。の。い。え。わ。り。は。う。
ま。あ。ま。ま。の。音。の。深。ま。る。り。一。こ。より。回。
ま。ま。用。を。ま。る。り。ま。れ。後。詞。ま。は。た。一。
ま。ま。れ。ま。ま。し。う。の。ま。ま。一。と。ま。ま。の。ま。ま。

を程今のこれ差別

詞の活用

海にあそ

あそ 相まさばひ

まほの五音と詞

比下を用ふる時の音

使まそわぬうる魚

然乃あそくはな故

考。學。と。と。記。を。知。る。故。と。ま。さ。い。わ。れ。り。
の。乙。甲。斐。と。ま。ひ。る。を。か。あ。れ。り。
ま。ひ。を。通。い。あ。ふ。れ。る。を。あ。う。れ。り。く。い。は。れ。
鼎。を。か。る。く。な。る。故。の。知。る。の。あ。ま。く。い。は。れ。
ま。ま。知。る。を。通。い。の。誤。り。と。
如。く。い。は。れ。を。い。は。れ。誤。り。と。

多。ま。し。り。已。り。せ。り。れ。り。
考。は。れ。道。理。を。考。
一。五。音。を。通。り。

試きは琴子あり
るのほつーらく云
妙の活用と詞小

そるあー一國のまれ
僅よのぬるる木
をねつるむわあ

は。新。方。切。乃。活。

用。乃。力。三。級。心。也。

至。乃。之。也。級。名。

未。定。心。之。少。を。は。

至。乃。心。級。心。也。

之。乃。心。級。心。也。

子向くは清字
を人々書生ふ
て七二千也

三子字如音韻
もその定ととも
知まらじや

皇國のよき如き
とち乃玉十韻の
外はつそはは
り

難しとす
あはれ
乃通ひ

法は諧し為こ
子秋の詞如原
由を心し活用

乃法を述つ相名を
了し西洋支那の
語彙を考ふるも

國語之可也
之何能以
孔的當此語也

飛釋
其先其本在
正之其末自也

学つたや知を勉
 せりから奔
 りも也幼童

新發元書籍畧目錄

大阪心齋橋通北久太郎町
 柳原喜兵衛藏版

世界の大事

荻田筱夫先生著
 全二冊

此書ハ五洲の形勢を論ト各國の名号ハ勿論方面の廣狭人
 類の多少首府都城交易場等を擧げて全世界を觀る事堂を
 照すが如く且章句ハ國風の長歌一綴一書ハ菱湖流の大字
 一して兒童必讀小學校緊要の珍本あり

童蒙 筆法

荻田筱夫先生著
 二編追刻
 全一冊

運筆書法の書けりといへども高妙にして通曉し難きもの
 少りしに依て菱湖先生の家の則に從ひ永字八法三十二勢及
 び顧盼向背仰覆の揮運に至るまでの秘訣を載せ懇々俗解

畧目

を加へられたれば一讀の下直ち其規矩を稱ふべき至寶の書なり

皇國綜覽

荻田筱夫先生著

全一冊

此書府縣の管轄と分ち官幣國幣の神社各國の郡名石高人員礦山の所在所産の物品等悉く記載せる物にて上官路に在るの仕より下農工商に至るまで領吏も欠くべからざる善本といふ可し

地方大概集

加藤高文先生著

從初編至四編各編五冊

此書古今地方の定法一事も洩さず抄録し且取斗らひ方と詳ししたれば其筋の君子座右一日も欠く可うらず郡村の事務必用の書たり

小學單語五千字

荻田筱夫先生書

全三冊

此書單語數千字と楷行二体と書いたるは獨童蒙習讀の用のみならず天文地理百科の翻譯書を觀るの扶けを爲す事少しとせざる翻譯書字引と題するも當らずと謂ふ可らざるものあり

團欒夜話

荻田筱夫先生述

全二冊

此書天地間の眞理より方今御政体の有り難き事ハ申し及ばず文學技藝商法農事に至るまで研究せざるべからざるの講釈と詳ししたれば如何ぞ講習固陋の人ハ一朝開化は進歩昨日の面目今日と變ト自主自由の正權を執り富強立どころは成るの珍書なり

銀行規略

加藤祐一先生編述
荻田長三先生書

全二冊

此書の稿社と結ぶの主意よりしてバンクの規則等を銀行條例の趣によつて手本文に綴り稿家幼童の爲に備へたる書あり

文明開化

加藤祐一先生編述

初編 全二冊

此書ハ斬髮洋服の事より敬神愛國の正理と説き文明開化の大趣意と講釈したる書にて開化はよゝろぎを人ハ必讀せざる事を得ざる書なり

養蠶事實

佐貝義胤先生口授
加藤祐一先生補綴

全三冊

附 利益大概

此書の蠶生立ちの始めより繭とるり糸を製するに至る迄の扱ひ方桑苗の見分け培養の手續き等婦女子にも見易きやう仮名書きよりて養蚕家實用の書なり

大日本船路細見記

加藤祐一先生著

全一冊

此書の海路の淺深暗礁の有無等實地を就て研究したる航海家の説と輯録せし書よりて蒸氣風帆の船持ちたる人常々掌上に安して少時もさしなく可なりざるの書あり

商社往來

加藤祐一先生著

全二冊

此書の商社取建て約定書の大抵社中賞罰の規則外國人雇入もの手續き願面の大意其外種々の取扱ひ方等先生の學識を以て贈答の書簡なものされたれば商社と結ぶ爲の手

本は供ふる至宝の書なり

五十韻の原由

加藤祐一先生著
村田海石先生書

全二冊

附 横文字五十韻

此書は手習ひ本にて初めは五十韻と大書し次小五十韻の活用を示し國語の正しき筋を説き今人々の常言ふ詞といへども聊も規則を洩らふとちきき妙用の訣を言短く俗の手本文の如く綴りて學問の先我國の事よりして學ぶ可き道理を教へたる書にていろは小代て幼童必習ひたす可き書なり

會社辨講釋

加藤祐一先生口授
積玉圃主人 聽記

全二冊

此書は諸商社諸機械製造の商社バンク貸附會社等の取建

方願立の手續き取扱の定法利益の大概等西洋各國の制限方法によつて向きと利行せられ會社辨の講釋にて加藤先生の説られたる事、小俗談平話と以て筆記したるもの、此書は勝る書はふし、

交易心得草

加藤祐一先生著

前編 一冊
後編 二冊

此書は交易通商の道乃世小欠き難き道理よりして費と省き便利を計るハ分業の法によるべき訳外國人と取引の心得商社を建てバンクを建つ規則危險請負の割合等凡商法またづさえる事悉く輯録して家を富ますハ國を富ますの基本たる事と懇々説き示し當時の實用と專ししたる書ふれば商家りちりず讀んで賣買五市の扶けと為す可きなり

畧目

四

方向 廻船 用心記

吉村海洲先生著

全一冊

必携 廻船 大日本海路圖

順風丸大吉大人著

折本 全二冊

水路海程の上は在り寂著意すべきハ一の盤針をり針向一
たび失ふ時ハ託する所を知らざ此圖ハ洋中の目的諸國の
山巒港口の所在海灣地峽島嶼岬埼又錠泊の便否等まてと
摸寫したるもの一て船路細見記と併觀航海安穩と得る
の至大の奇圖と謂ふ可き重寶ナリ

海外行程記

大戸陶菴先生著

近刻 全一冊

鵬遊文章

荻田筱夫先生著

近刻 全二冊

諸國弘通書肆

東京 須原屋茂兵衛
同 山城屋佐兵衛
同 小林新兵衛
同 和泉屋市兵衛
同 和泉屋吉兵衛
同 岡田屋嘉七
同 萬屋忠藏
同 山城屋政吉
同 出雲寺萬次郎
同 和泉屋金右衛門
同 須原屋伊八

東京 鴈金屋清吉
同 京都村上出店
同 鈴木喜右衛門
同 椀屋喜兵衛
同 大坂屋藤助
同 袋屋龜次郎
同 近江屋岩次郎
同 若林喜兵衛
同 近江屋半七
同 長門屋龜七
同 河内屋文助

弘通

阿州德島	天滿屋武兵衛	藝州廣鳴	田邊屋真六
同	紀伊國屋三右衛門	同	井筒屋勝次郎
讚州金比羅	柏屋仲助	長州下之關	書籍會社
同	寶屋小七郎	防州山口	山城屋彦八
豫州今沼	鳥生屋廣助	同	淺田屋孫兵衛
同	吉田	同	萬福屋要藏
同	宇和島	薩州鹿兒島	青木泰助
備前岡山	山本彦八	泉州堺	書籍會社
備中倉敷	林源十郎	同	河内屋久三郎
同	井原	大坂安土町	書林會社
同	高梁	同	書籍會社
同	玉島	同	同
備後福山	笹屋喜兵衛		

紀元二千五百三十三年一月新刻

版元

柳原喜兵衛

大阪心齋橋通北久太郎町

同本町

書籍會社

弘通所

下ノ関西南部町

同分社

